

山形県立山形西高等学校

放課後実験倶楽部

小学生と一緒に在来メダカで環境学習

市内の小学生に在来種であるキタノメダカを知ってもらう活動を行ってきた。池がある小学校ではキタノメダカを中心としたビオトープづくりに、池などがない小学校ではプラスチック製のコンテナを利用した簡易ビオトープを用いて環境学習を行っている。



福島県立福島西高等学校

科学部

エーテルだけで発電してみた

発電に必要なモーターの駆動を水蒸気ではなく、沸点の低いエーテルを使用することにより、より少ないエネルギーで発電し、排出する二酸化炭素をゼロにすることを目標にした。さらに、小水力発電装置を学校周辺の河川に設置することで発電を実施した。

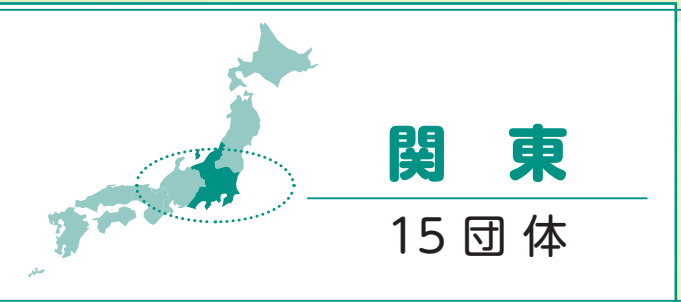


茨城県立緑岡高等学校

生物部

リサイクルガラス発泡資材を用いた軽量化土壌による小麦の栽培

グリーンインフラの導入をより簡単にする「移動可能な緑地」の実現を目指しています。廃ガラスびんをリサイクルしたガラス発泡資材に着目し、土壌を軽量化する実験を行いました。これからもより軽く、扱いやすい優れた軽量化土壌の研究を続けていきます。



栃木県立矢板東高等学校

リベラルアーツ同好会

栃木のサメ食文化を守る ～文化を守る×環境を守る～

栃木県立矢板東高等学校リベラルアーツ同好会では、地域に根ざした活動を行っています。紙芝居の題材については、地域文化の継承と環境保全という観点から、地元に残る海や川に関する民話などを取り上げることで、情報を発信していきたいと考えています。



栃木県立真岡北陵高等学校

食品科学研究部

地域に眠る野菜たち ～野菜の利用価値を高めるために～

地場農産物の活用や地産地消の推進活動を積極的に行ってきました。エシカル消費やSDGsに関連づけた目標設定を行い、野菜摂取の向上に向けた取り組みを地域の方に向けて行いました。また、食品ロスの解消に向けて新しい商品の開発に取り組みしました。



群馬県立尾瀬高等学校

理科部

自然を楽しむ ～自然の魅力で地域をつなぐ～

私たち自身が自然を全力で楽しみながら、地域の様々な人々と自然をつなげていくための活動を行っています。①自然を楽しむ②地域の一人として活動し自然に触れ合う機会や情報を提供すること③イベントを主催して自然体験の場を作ることです。



群馬県立藤岡北高等学校

環境工学部

小川の未来を考える ～地域連携・協働によるヤリタナゴ保護活動～

市の天然記念物であるヤリタナゴの保護活動を地域と連携・協働で実施している。高校のタナゴビオトープで、幼児や小中学生対象に環境教育に活用している。「ヤリタナゴ懇談会」を立ち上げ、啓発活動によりヤリタナゴ知名度は50%以下から80%に向上した。



千葉県立安房高等学校

チーム あわわ

あまも復活への挑戦 with たてやま・海辺の鑑定団

アマモの再生活動(種子の採集、種子の選別、播種・栽培、移植)、パークレンジャー、沖ノ島の環境整備の活動を行っています。活動とあわせて、学校の仲間や団体、行政、大学、企業など地域の方々と力を合わせて活動すると大きな力がうまれることを感じました。



専修大学松戸高等学校

理科部

ミルワームのプラスチックごみ問題解決に向けて

ミルワームは、スタンフォード大学の研究によりプラスチックを分解することが報告されています。現在、ミルワームの生態について「嗅覚による走行」を調査しています。今後は、研究結果を生かし、ミルワームを活用したシステムなども考えていきます。



東京都立国際高等学校

環境科学

国際高校から始めるSDGs

主な活動は、①コンタクトレンズケース回収、②ミスプリントの再利用・削減、③マイボトル推進、④食品ロス自販機導入の企画、⑤購入品の正しい選択を広める。目標は、国際高校の全生徒が地球環境について取組み、この活動を世界の高校へ広げること！



東京都立府中東高等学校

生物部

多摩川に増加する外来植物アレチハナガサが昆虫に与える影響

多摩川の植物の半分以上は外来種。特にアレチハナガサが急激に増加しています。野外調査で、アレチハナガサの増加が昆虫の生息にどのような影響を与えるのか、その一つを明らかにすることができました。今後もアレチハナガサの生態を調べていきます。

